

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

**特許第3885155号
(P3885155)**

(45) 発行日 平成19年2月21日(2007.2.21)

(24) 登録日 平成18年12月1日(2006.12.1)

(51) Int. Cl.

F I

A 4 5 D 29/02 (2006.01)

A 4 5 D 29/02

G

A 4 5 D 29/04 (2006.01)

A 4 5 D 29/04

請求項の数 4 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2003-307965 (P2003-307965)
 (22) 出願日 平成15年7月28日(2003.7.28)
 (65) 公開番号 特開2005-46567 (P2005-46567A)
 (43) 公開日 平成17年2月24日(2005.2.24)
 審査請求日 平成15年12月3日(2003.12.3)

(73) 特許権者 598087140
 奥水 真也
 東京都国立市富士見台1-27-1-19
 -403
 (72) 発明者 奥水 真也
 東京都国立市富士見台1-27-1-19
 -403
 審査官 奥 直也

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ワンタッチ爪切り

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

刃には外枠を設け、外枠の内側で上下円滑に動く刃で、刃に対して外枠は一体となって回転運動をし、互いに同型に設けられ、本体内部に組み込まれたこれらの刃と、外枠と、本体とは相対的に回転可能にし、本体内部に複数並んだ刃と複数並んだ外枠の切り口を設け、刃と一体となった外枠を本体に対して回転させて、本体の切り口で刃の選択ができる爪切りで、刃は円柱型で円周に沿って設置した爪型に型取られ断面が曲線になった異なる刃幅や刃型を設け複数並べた刃で、同様に外枠に対しても刃と同型な爪を挿入する切り口を設けて、タイプ別に変えられて、テコの原理を利用し、アームに支点、作用点を設け本体上部に設置し本体内部の刃上部中心と連結したアームの作用点の働きでアームを押すと連結した刃が下に働く力により本体と外枠の切り口に挿入された爪を内側に設けた刃と外枠の切り口により一度に切れる爪切り。

【請求項2】

刃には外枠を設け、外枠の内側で上下円滑に動く刃で、互いに同型に設けられ、刃と外枠は本体に対して回転しない様に本体内部に組み込み、本体とアームが相対的に回転可能にし、本体内部に複数並んだ刃と複数並んだ外枠の切り口を設け、本体外部に複数並んだ切り口を設け、本体内部に複数並んだ外枠の切り口と共に円周方向の同位置にあり、本体を回転させて、本体の切り口で刃の選択ができる爪切りで、刃は円柱型で円周に沿って設置した爪型に型取られ断面が曲線になった異なる刃幅や刃型を設け複数並べた刃で、同様に外枠に対しても刃と同型な爪を挿入する切り口を設けて、タイプ別に変えられて、テコの

10

20

原理を利用し、アームに支点、作用点を設け本体上部に設置し本体内部の刃上部中心と連結したアームの作用点の働きでアームを押すと連結した円柱型の刃上部中心に力が働き円柱型の外枠との円滑な動きで下に働く刃の中心に加わる力により複数並べたそれぞれの刃に対し均等な力が伝わり本体と外枠の切り口に挿入された爪を内側に設けた刃と外枠の切り口により一度に切れる爪切り。

【請求項 3】

刃には外枠を設け、外枠の内側で上下円滑に動く刃で、互いに同型に設けられ、刃と外枠は本体に対して回転しない様に本体内部に組み込み、本体に対してアームも回転しない様に固定式にされたもので、本体内部に複数並んだ刃と複数並んだ外枠の切り口を設け、本体外部に複数並んだ切り口を設け、本体内部に複数並んだ外枠の切り口と共に円周方向の同位置にあり、本体の切り口で刃の選択ができる爪切りで、刃は円柱型で円周に沿って設置した爪型に型取られ断面が曲線になった異なる刃幅や刃型を設け複数並べた刃で、同様に外枠に対しても刃と同型の爪を挿入する切り口を設けて、タイプ別に変えられて、テコの原理を利用し、アームに支点、作用点を設け、支点と、作用点はそれぞれ一ヶ所としそれぞれが移動せず本体上部に設置し本体内部の刃上部中心と連結したアームの作用点の働きでアームを押すと連結した円柱型の刃上部中心に力が働き円柱型の外枠との円滑な動きで下に働く刃の中心に加わる力により複数並べたそれぞれの刃に対し均等な力が伝わり本体と外枠の切り口に挿入された爪を内側に設けた刃と外枠の切り口により一度に切れる爪切り。

10

【請求項 4】

20

下面部に設けた受け皿に切った爪が溜るようにし、曲線部にやすりを設ける事で、丸みを帯びた爪を削りやすくし、切り口には安全を考慮した深爪防止ガードを設けた請求項 1 から 3 いずれかに記載の爪切り。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ワンタッチで爪が切れ綺麗に仕上がる一般家庭の爪切りに関する

【背景技術】

【0002】

従来の爪切りでは刃が大中小程度の物であって、爪を切る時に指 1 本に対し数回にかけ爪を切る動作が必要となり、手間が掛り形を整えて要るうちに切り過ぎて深爪などの原因にもなる。

30

【特許文献 1】 特開 2003 - 52444 号（代表図面）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

以上に述べた従来の爪切りは、1 本の指の爪を数回に掛けて切る必要があり手間が掛り形を整えて要るうちに切り過ぎて深爪などもする。

【0004】

特に、目の悪い高齢者や人手をかりなくてはならない子供、面倒くさがりやな人などには容易ではない。

40

【0005】

本発明は、このような従来の爪切りの手間や不快感などの問題を解決しようとするものであり、一回で切れて、しかも綺麗な仕上がりで深爪防止を目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

請求項 1 に記載の爪切りは、刃に対して外枠は一体となって回転運動をし、互いに同型に設けられ、本体内部に組み込まれたこれらの刃と、外枠と、本体とは相対的に回転可能にし、本体内部に複数並んだ刃と複数並んだ外枠の切り口を設け、刃と一体となった外枠を本体に対して回転させて、本体の切り口で刃の選択ができる爪切りで、刃は円柱型で円周

50

に沿って設置した爪型に型取られ断面が曲線になった異なる刃幅や刃型を設け複数並べた刃で、同様に外枠に対しても刃と同型な爪を挿入する切り口を設けて、タイプ別に変えられて、テコの原理を利用し、本体内部の刃上部中心と連結したアームの作用点の働きでアームを押すと連結した刃が下に働く力により本体と外枠の切り口に挿入された爪を内側に設けた刃と外枠の切り口により一度に切れる爪切りである。

本発明によれば、上記目的を達成するために本体の切り口に指を入れ外枠の切り口に挿入した爪を内側の刃によりワンタッチで切れて形を整える為に何度も切る手間をはぶき、面倒くさがりやな人はもちろん子供から高齢者まで簡単に使用できて、しかも綺麗に仕上がりに、安全ガードで深爪も防止する事が出来る。

【0007】

請求項2に記載の爪切りは、刃と外枠は本体に対して回転しない様に本体内部に組み込み、本体とアームが相対的に回転可能にし、本体内部に複数並んだ刃と複数並んだ外枠の切り口は本体外部に複数並んだ切り口と本体内部に複数並んだ外枠の切り口と共に円周方向の同位置にあり、本体を回転させて、本体の切り口で刃の選択ができる爪切りで、刃は円柱型で円周に沿って設置した爪型に型取られ断面が曲線になった異なる刃幅や刃型を設け複数並べた刃で、同様に外枠に対しても刃と同型な爪を挿入する切り口を設けて、タイプ別に変えられて、テコの原理を利用し、本体内部の刃上部中心と連結したアームの作用点の働きでアームを押すと連結した円柱型の刃上部中心に力が働き円柱型の外枠との円滑な動きで下に働く刃の中心に加わる力により複数並べたそれぞれの刃に対し均等な力が伝わり本体と外枠の切り口に挿入された爪を内側に設けた刃と外枠の切り口により一度に切れる爪切りである。本発明によれば、アームを持ち本体を回転させる事で複数並んだ切り口に指を挿入して爪を切る際に最適なポジションと爪の選択を簡単に行う事が出来る。

【0008】

請求項3に記載の爪切りは、刃と外枠は本体に対して回転しない様に本体内部に組み込み、本体に対してアームも回転しない様に固定式にされたもので、本体内部に複数並んだ刃と複数並んだ外枠の切り口は本体外部に複数並んだ切り口と本体内部に複数並んだ外枠の切り口と共に円周方向の同位置にあり、本体の切り口で刃の選択ができる爪切りで、刃は円柱型で円周に沿って設置した爪型に型取られ断面が曲線になった異なる刃幅や刃型を設け複数並べた刃で、同様に外枠に対しても刃と同型な爪を挿入する切り口を設けて、タイプ別に変えられて、テコの原理を利用し、刃上部中心と連結したアームの作用点の働きでアームを押すと連結した円柱型の刃上部中心に力が働き円柱型の外枠との円滑な動きで下に働く刃の中心に加わる力により複数並べたそれぞれの刃に対し均等な力が伝わり本体と外枠の切り口に挿入された爪を内側に設けた刃と外枠の切り口により一度に切れる爪切りである。本発明によれば、一番シンプルに構成され、本体の複数並んだ切り口に指を入れて爪を切る、子供や高齢者向けの爪切り。

【0009】

請求項4に記載の爪切りは、請求項1から3いずれか一に記載の爪切りにおいて、下面部に設けた受け皿に切った爪が溜るようにし、曲線部にやすりを設ける事で、丸みを帯た爪を削りやすくし、切り口には安全を考慮した深爪防止ガードを設けた爪切りである。本発明によれば、爪カスが受け皿に溜まるので、爪切り後の掃除を簡単にし、曲線部のやすりにより爪を削る事が出来るので、爪先の凹凸をなくす事が出来て、深爪等安全を考慮した深爪防止ガードを切り口に装備した爪切り。

【0010】

上述したように本発明の爪切りはワンタッチで爪が切れて、子供から高齢者まで簡単に使用でき、しかも綺麗な形状に爪が切れ仕上がる。

好みに合わせて爪の長さや爪幅の形状を選択できるもので、爪型の刃はタイプ別に、角ばった形や丸み帯びた形と好みに応じて選択でき、爪カスはまとまりまた深爪も防止できる手間の掛からない爪きりを提案できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

10

20

30

40

50

以下、本発明の形態を図１～図４に基づいて説明する。

【００１２】

図１は平面図である。このワンタッチ爪切りは爪型に型取られ断面が曲線になった刃を刃幅や刃型を変えタイプ別に複数並べて設置し、テコの原理を利用して一度押すと刃に働く力に余って一回で刃が切れる爪きりである。

図１において、Ｔ１は切り口で安全を考慮した上、爪が入る程度の際間に構成される。また切り口には爪を入れやすくし、切る際に爪が平らにならない用刃と同様曲線に構成されている。

【００１３】

図２において、Ｔ２は各切り口に装備された深爪防止ガードで、爪幅に合わせてタイプ別に切り口に爪を入れて指を軽く深爪防止ガードに合わせセットする。 10

【００１４】

また、切り口付近や爪受け皿などに透明色の素材を用いる事で爪と刃の距離や爪カスの量など目で確認できる。

【００１５】

Ｔ２の深爪防止ガードに弾力性を持つ素材を利用する事で、さまざまな指の形を安定させると共に爪の生え際の高さなどもセットした後に、微調整できる構成になる。

【００１６】

図２のＴＡを軽く押すとテコの原理によりアームと本体をつなぐＴＴが支点となり本体内部にあるＴＤの内側のＴＢ上部中心と連結されたＴＦが作用点となり下に働く力により円柱型のＴＢ上部中心に力が働き円柱型のＴＤとの円滑な動きで下に働くＴＢの中心に加わる力により複数並べたそれぞれのＴＢに対し均等な力が伝わり本体とＴＤの切り口に挿入された爪を内側に設けたＴＢとＴＤの切り口によりワンタッチで刃の形状に綺麗に爪が切れて、子供から目の悪い高齢者まで手軽に簡単に使用する事が可能、またＴＡが押され、それを戻す為にＴＥの戻す力が働き、スムーズにＴＡが戻る構成。 20

【００１７】

図３は刃と外枠は本体に対して回転しない様に本体内部に組み込み、本体とアームが相対的に回転可能にしたものであり、本体内部に複数並んだ刃と複数並んだ外枠の切り口は本体外部に複数並んだ切り口と本体内部に複数並んだ外枠の切り口と共に円周方向の同位置にあり、本体を回転させて、本体の切り口で刃の選択ができる爪切りと刃に対して外枠は一体となって回転運動をし、互いに同型に設けられ、本体内部に組み込まれたこれらの刃と、外枠と、本体とは相対的に回転可能にしたもので刃と外枠を回転させて本体外部の切り口で刃の選択ができる爪切りである。図３のＴＫは刃の形状を丸み帯びた形から角張った形にした替え刃である。好みによって選ぶ事が出来る。図１のタイプ１と図４のタイプ３も同様に替え刃可能。 30

【００１８】

図１のＴ１は深爪防止ガードを装備した切り口で、Ｔ２に指を合わせて爪を切ると爪が短く仕上がり、切り口から指を離して切れば爪が長く仕上がるように調整出来る。

【００１９】

切れた爪カスは周りに飛び散らず下に落ち受け皿にたまり、受け皿を外しゴミ箱へ（図２、Ｔ３） 40

【００２０】

図２のＴＣは、ＴＡの曲線部に設けられたヤスリで、丸み帯びた爪の手入れ用に最適。

【００２１】

図３のタイプ２．Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，は刃と外枠は本体に対して回転しない様に本体内部に組み込み、本体とアームが相対的に回転可能であり内部で接続されたＴＡとＴＡ'を持ち本体を回転させて複数並んだ切り口にある複数並んだ刃幅の異なる刃を選択し爪を一度で切る爪切り。

【００２２】

図３タイプ２．Ｅ，Ｆ，Ｇ，Ｈは刃に対して外枠は一体となって回転運動をし本体内部に 50

組み込まれたこれらの刃と、外枠と、本体とは相対的に回転可能にし、複数並んだ刃幅の異なる刃と外枠を回転させて本体の切り口で刃の選択ができ一度で切る爪切り。

【0023】

図1のタイプ1と図4のタイプ3は共に刃と外枠は本体に対して回転しない様に本体内部に組み込み、本体に対してアームも回転しない様に固定式にされ一度に切る爪切り。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図1】図1はタイプ1の爪切りである A - Aは本体上両面である B - Bは本体断面図である C - Cは刃の下図面である D - Dは切り口正面図である。

【図2】図2は拡大図である

10

【図3】図3はタイプ2で回転式の爪切りである A - Aは本体上両面である B - Bは本体断面図である C - Cは刃の下図面である D - Dは切り口正面図である。H - Hは切り口正面図である

【図4】図4はタイプ3の爪切りである A - Aは本体上両面である B - Bは本体断面図である C - Cは刃の下図面である D - Dは切り口正面図である。

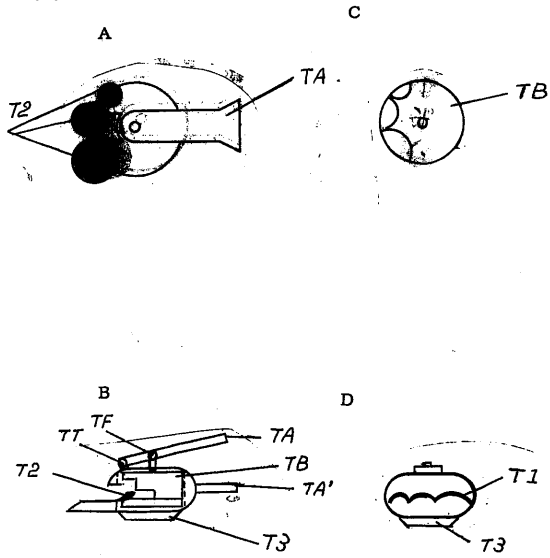
【符号の説明】

【0025】

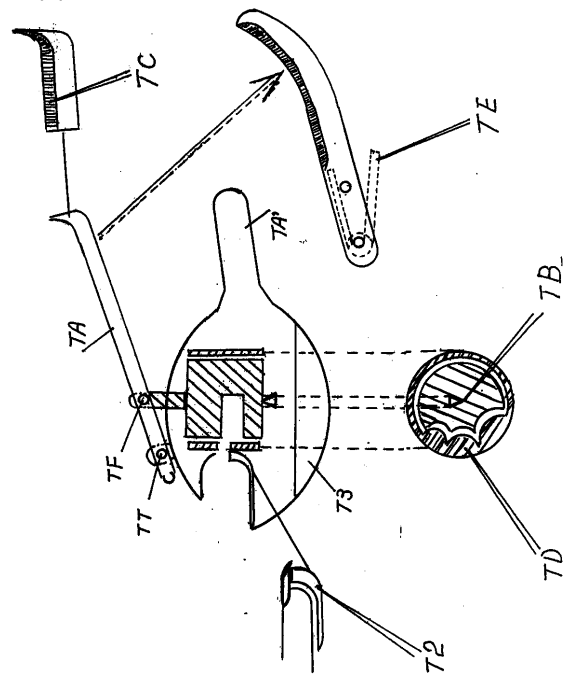
T 1 切り口
T 2 深爪防止ガード
T A 上アーム
T A ' 下アーム
T B 刃
T K 替え刃
T 3 爪受け皿
T C 曲がりヤスリ
T D 刃を囲む外枠
T E 弾力性のあるもの
T T 支点
T F 作用点

20

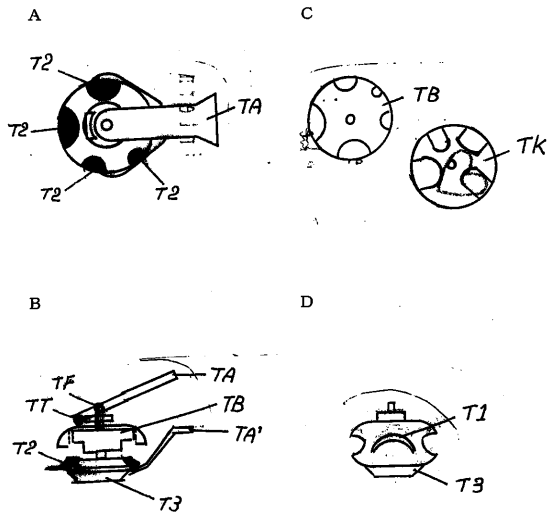
【図 1】



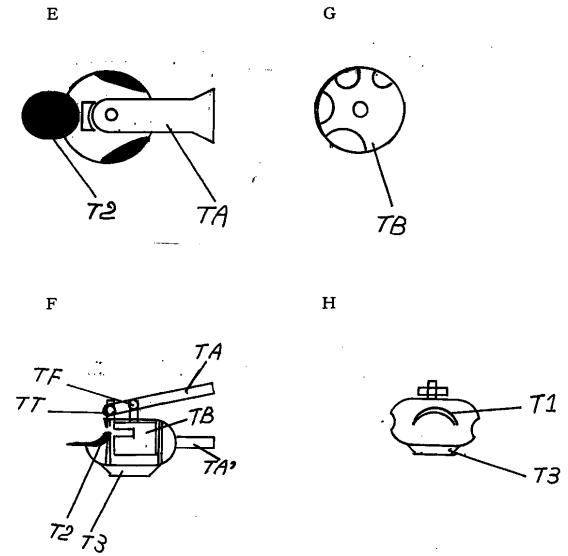
【図 2】



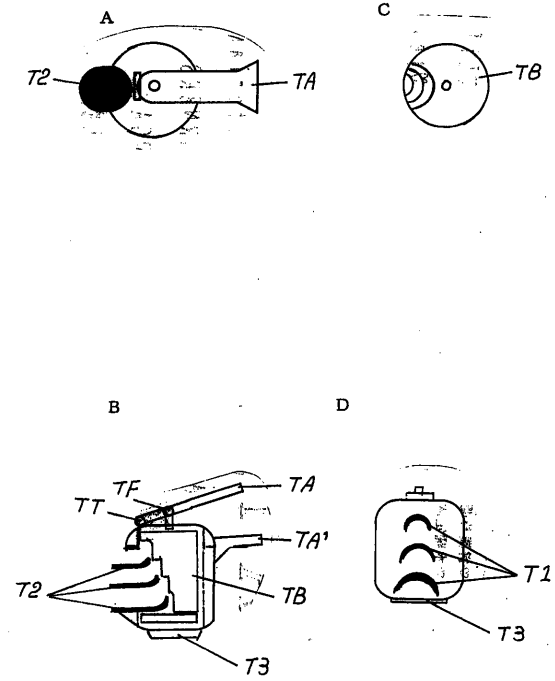
【図 3 - A】



【図 3 - B】



【図 4】



フロントページの続き

(56)参考文献 国際公開第02/102184(WO,A1)
特開平09-098827(JP,A)
実開昭52-110970(JP,U)
特開平07-047012(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)
A45D 29/02
A45D 29/04